

2. 結 果

表1よりの第10回の勤務時間内各項目平均合計必要時間：40.52時間、勤務時間外各項目平均合計必要時間：21.98

(40.52+21.98)時間÷40時間(1週間の勤務時間) =1.56(必要日勤ICN人数/600床)

1.56人×242(年間平日勤務日数) /222(年休削除) =1.70(600床当たり必要なICN人数)

600床÷1.70=352.9床 よって、352.9床あたり1人のICNが必要。

また、表2の示すとおり本邦で報告されている2009年から5年間の必要人員をまとめると、平均病床数254床に1名のICNが必要であるとの結果を得た¹⁻³⁾。

3. 今 後

このように、本邦でも必要人数に関するデータが蓄積されつつある。今後もこれらのデータ収集を継続するとともに、データに基づいた人員配置による感染制御活動の検証を行う計画である。

文 献

- 1) 大須賀 ゆか,土屋 香代子.感染管理認定看護師の活動内容の検討 デルファイ法による調査.日本環境感染学会誌 2009; (24 Suppl):243.
- 2) 小林 寛伊,中田 諭.インфекション・コントロール・ナース業務必要時間.医療関連感染 2011; 4(1): 25-29.
- 3) 小林寛伊. インフェクション・コントロール・ナース (ICN) およびインフェクションコントロールドクター (ICD) の日常業務必要時間の調査に基づく算定. 厚生労働科学研究 中小医療施設における感染制御策の質向上を目指す支援体制についての研究 平成23年度～24年度総合研究報告書.東京: 56-94.幸書房 2013.

表2 ICN 1人あたりの病床数

	病床数	ICN 数
2009年 ¹⁾	308	1
2010年 ²⁾	250	1
2011年 ³⁾	217	1
2012年 ³⁾	192	1
2013年	353	1
平均	264	1
SD	59.1	

Delphi法に基づいた調査結果

Ⅷ 院内感染対策講習会 DVD および手引きの作成と全国配布

岩田 敏, 小林寛伊

厚生労働省の補助金を受け、日本感染症学会が主催して1993年より医師、看護師それぞれを対象に全国7か所で開催した院内感染対策講習会は、1995年には、夫々4か所ずつに開催地を削減し、1999年からは、医師2か所、看護師4か所、薬剤師1か所、微生物検査技師1か所で開催されており、現在にいたっている。

この講習会は、最近20年間の日本における医療関連感染制御体制の大きな前進をもたらした事業の一つと言うことが出来る。然し、当初より受講希望者が多く、地域行政機関でその調整を図ってきたが、総ての希望者を受講させることは不可能であった。

このような状況下に於いて、2013年8月の総務省による“医療安全対策に関する行政評価・監視結果に基づく勧告”において、所見の一つとして、“院内感染対策講習会について、診療所における院内感染対策研修の実施を支援する観点からも、講習内容を記録したDVDを作成・配布するなど、参加できなかった者に対しても講習内容が受講できるような方策を講ずること。”という勧告を受けた。

この勧告を受けて、当研究班では、急遽、追加交付を受けて、院内感染対策講習会のDVDを作成し、さらに、感染制御にあまり馴染のない医療施設上層部でも、研修内容を知ることができるよう、DVDの内容を紹介し、注意点をまとめた手引きを作成し、全国47都道府県に配布することとした。このDVDと手引の配布が、より多くの医療関係者の啓発に役立ち、全国医療関連感染制御体制の更なる向上に資することと考える。

厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業

感染制御システムのさらなる向上を目指す研究／
特に中小医療施設を対象として

平成 25 年度 総括研究報告書

発行日 平成 26 年 5 月 20 日

発行者 小林 寛 伊

〒141-8648 東京都品川区東五反田 4-1-17

東京医療保健大学 TEL03-5421-7655

発行所 幸 書 房

